

容器包装3Rに関する消費者意識調査 調査レポート

普段の生活の中での「ごみ出し」への関わりが 容器包装の3Rに大きく影響

3R推進団体連絡会では、容器包装3Rに関する消費者の意識と行動の実態を測るべく、全国の15歳以上の一般消費者を対象に調査を行った。

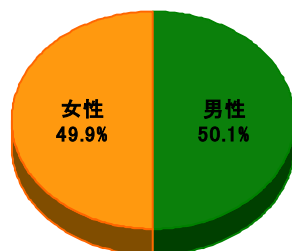
調査手法はインターネットリサーチで2009年7月7日～7月9日に実施し、3000名から有効回答を得た。

【調査概要】

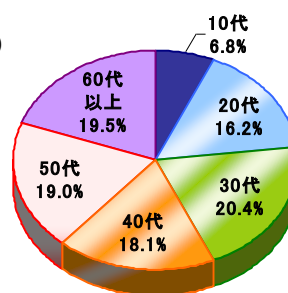
- ◆調査方法: インターネットリサーチ
- ◆調査地域: 全国
- ◆調査対象: 15歳以上の男女(人口構成比に準じて割付)
- ◆有効回答数: 3000サンプル
- ◆調査実施期間: 2009年7月7日～7月9日
- ◆調査運営: 株式会社クロス・マーケティング

【回答者の属性】

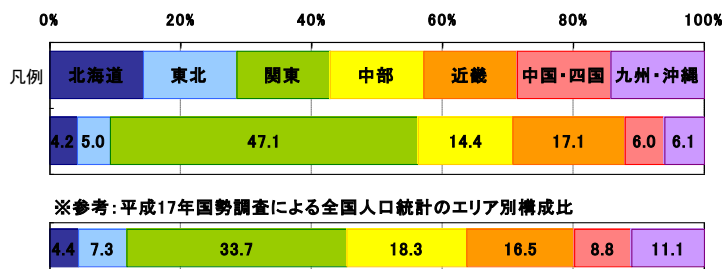
◆性別 (n=3000)



◆年代 (n=3000)



◆居住地 (n=3000)



【調査の要旨】

◆誰が「ごみ出し」をしているか

- ・自分自身で「ごみ出し」をしているのは女性30代以上。
- ・家族と同居する男性や20代以下の女性は「ごみ出し」を家族任せ。

◆居住自治体の分別方法を守っているか

- ・自分自身で「ごみ出し」をしている人の方が、分別方法を「きちんと理解」し、「いつもきちんと守っている」。

◆関心のある環境問題

- ・トップは「CO2削減」、2位は「マイバッグ運動」、「容器包装のリサイクル」は15位。

◆普段の買い物時に心がけていること

- ・トップは「マイバッグ持参」。自分で「ごみ出し」をしている人ほど、買い物時に心がけていることが多い。

◆「容器包装リサイクル法」の役割分担の妥当性

- ・消費者、自治体、事業者の役割分担は9割が「適切」と回答。

◆資源の収集・運搬、再資源化にかかる費用負担への意識

- ・環境問題への意識の高い層では、費用を「消費者が排出する量に応じて負担」するべきとの声も。

◆容器包装3Rの情報源

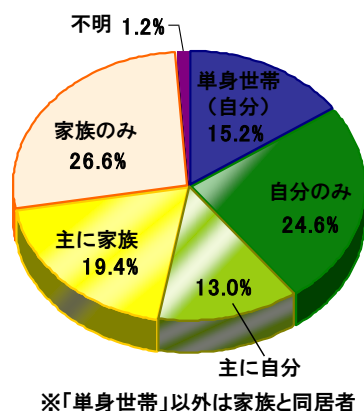
- ・信頼している情報源は、「テレビの報道番組」「自治体の広報誌」「新聞記事」の3つに集中。

容器包装3Rに関する消費者意識調査 調査レポート

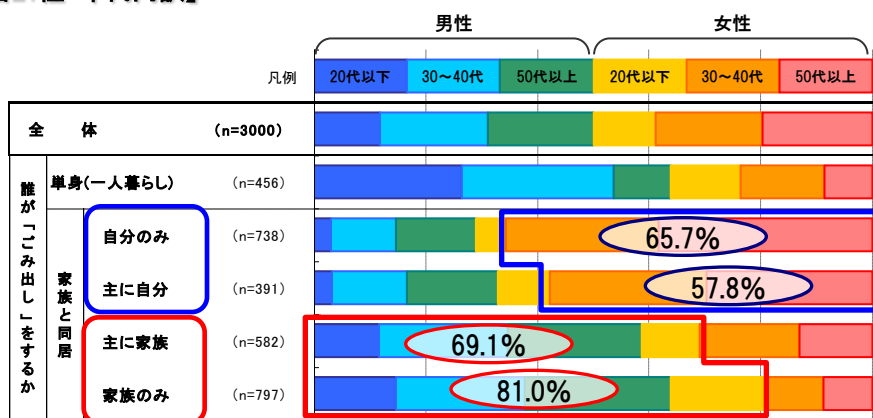
自分自身で「ごみ出し」をしているのは女性30代以上 男性および女性20代以下の「ごみ出し」は家族任せ

家庭内で誰が「ごみ出し」をしているかを図1の通り、5つのタイプに分類した。家庭内で「ごみ出し」を行っているのは女性30代以上で、家族と同居している男性や、20代以下の女性の多くは、自分では「ごみ出し」を行わず、家族に任せていることがわかった(図2)。

【図1: 誰が「ごみ出し」をするか】



【図2: 性・年代内訳】



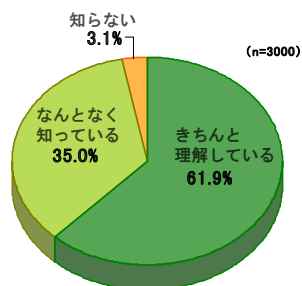
自分自身で「ごみ出し」をしている人は、分別方法を「きちんと理解」し、実行

居住自治体でのごみの分別方法を「きちんと理解している」人は6割で、「なんとなく知っている」と合わせるとほとんどの人が認知している(図3)。分別の実行度は、「いつもきちんと守っている」が7割以上であった(図4)。ごみ出しへの関与別にみると、自分自身で「ごみ出し」を行っている人の方が、分別方法を「きちんと理解」し、「いつもきちんと守っている」。逆に、自分でごみ出しを行っていない家族任せの人は、3割が「たまに守らないことがある」と回答している(図5)。

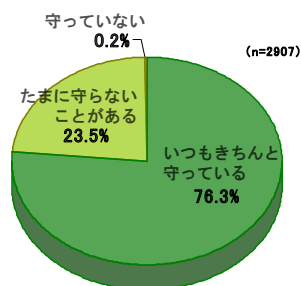
自治体での資源の分別収集のスキームについては、収集の頻度、時間、場所、分別品目いずれにおいても現状維持を望む声が多い(図6)。

また、居住地区での資源の集団回収については4割が、店頭での資源回収については7割が重要だと認識している(図7)。

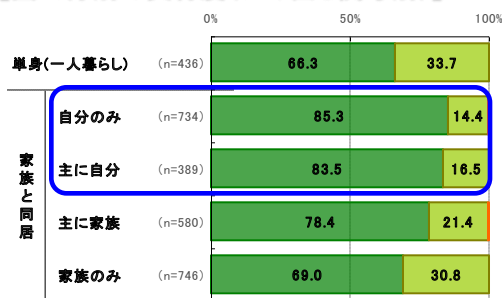
【図3: 分別方法の認知】



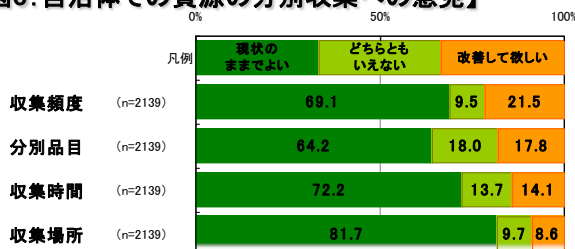
【図4: 分別の実行度】



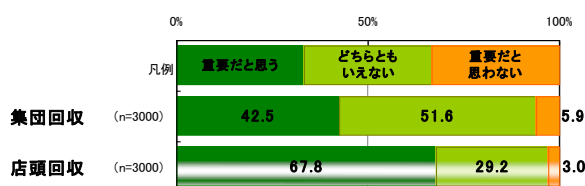
【図5: 分別の実行度(ごみ出し関与別)】



【図6: 自治体での資源の分別収集への意見】



【図7: 集団回収・店頭回収の重要度】



容器包装3Rに関する消費者意識調査 調査レポート

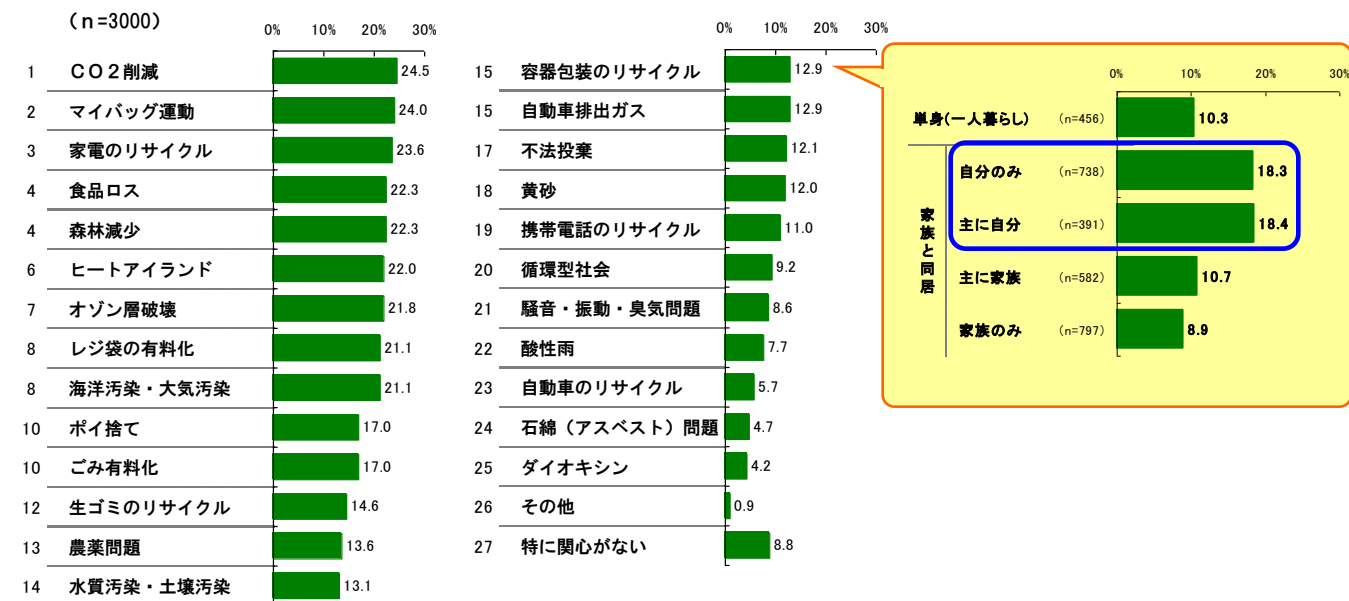
関心のある環境問題トップ3は「CO2削減」、「マイバッグ運動」、「家電のリサイクル」

関心のある環境問題を5つまで選んでもらったところ、上位は1位「CO2削減」(24.5%)、2位「マイバッグ運動」(24.0%)、3位「家電のリサイクル」(23.6%)であった(図8)。

2位の「マイバッグ運動」は女性で関心が高く、特に20代以上では3割を超えた。

「容器包装のリサイクル」(12.9%)は15位で、男女別では女性の方が関心が高く、また家庭内で「ごみ出し」に関わっている人ほど関心が高いことがわかった。

【図8: 関心のある環境問題】



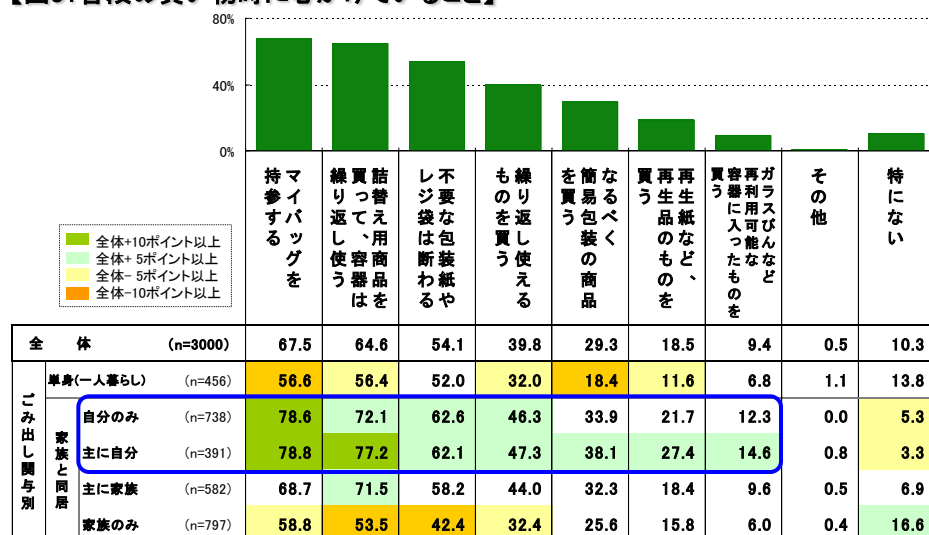
普段の買い物時に心がけていることのトップは「マイバッグ持参」

自分で「ごみ出し」をしている人ほど、買い物時に心がけていることが多い

普段の買い物時に心がけていることを訊ねたところ、トップは「マイバッグ持参」(67.5%)で、「詰め替え用商品の購入」(64.6%)が続く。

自分で「ごみ出し」をしている人は、マイバッグ持参を始め、自分でごみ出しをしていない人よりもスコアが高く、買い物時から多くの心がけをしていることがわかった(図9)。

【図9: 普段の買い物時に心がけていること】



容器包装3Rに関する消費者意識調査 調査レポート

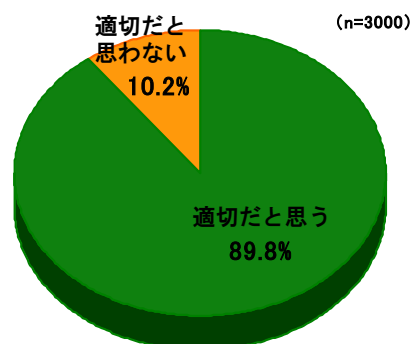
「容器包装リサイクル法」の役割分担は9割が「適切」と回答

容器包装リサイクル法で定義された役割分担

消費者・・・自治体が定める決まりに従って**分別排出**する
自治体・・・家庭から排出される容器包装を**分別収集**する
事業者・・・**再資源化**（リサイクル）の義務を負う

「容器包装リサイクル法」制定の目的および同法で定義された役割分担を提示し、この役割分担が適切かどうか訊ねたところ、「適切だと思う」が9割を占めた（図10）。

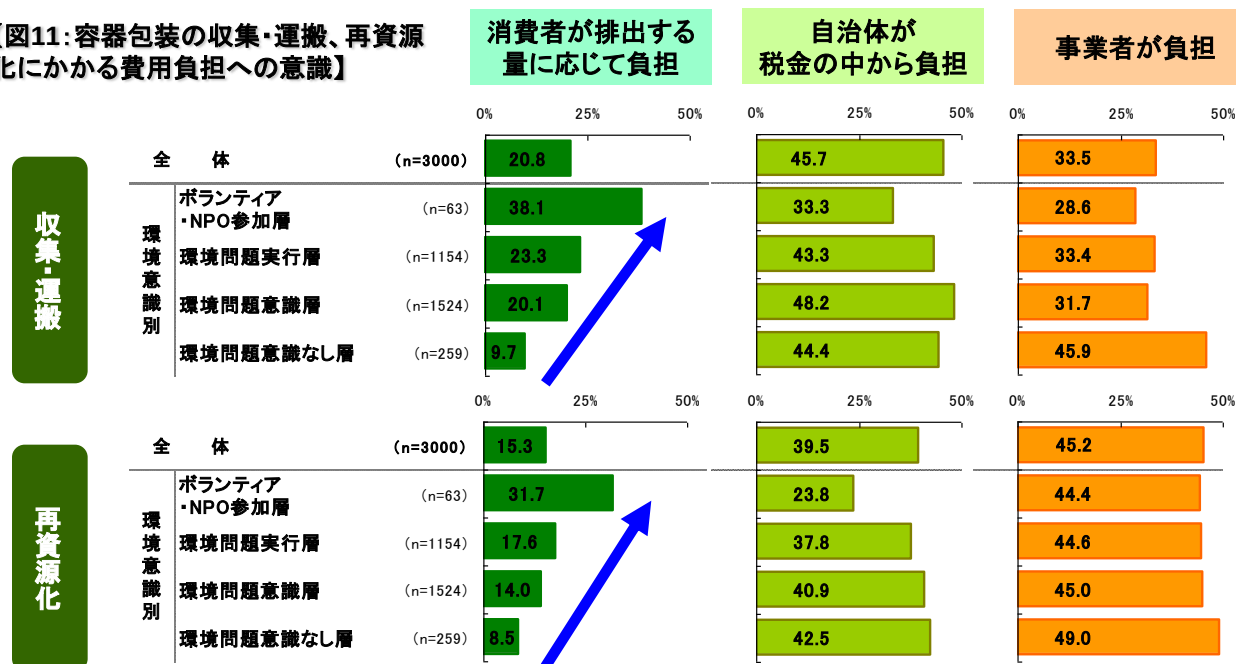
【図10:「容リ法」で定義された役割分担への意識】



環境問題への意識の高い層では、容器包装の分別・収集、再資源化の費用を「消費者が排出する量に応じて負担」するべきとの声も

容器包装の分別・収集および再資源化の費用をそれぞれ誰が負担すべきか訊ねたところ、全体意見としては、収集・運搬は「自治体」、再資源化は「事業者」と、現在容リ法で定義されている役割分担と同じスキームを維持する声が多かったものの、環境問題への意識が高い層では「消費者が排出する量に応じて負担すべき」が高く、消費者の責任についての意識の違いが見られた（図11）。

【図11:容器包装の収集・運搬、再資源化にかかる費用負担への意識】



※「環境意識」の定義・・・「環境問題」への意識と取り組みについての以下の4段階での回答結果を元に分析
「ボランティア・NPO参加層」: 普段から環境問題を意識し、ボランティア・NPOなどでの活動にも参加している
「環境問題実行層」: 普段から環境問題を意識し、日常生活の中で常に行動している
「環境問題意識層」: 環境問題は意識はしているが、あまり行動には移していない
「環境問題意識なし層」: 環境問題は特に意識していない

容器包装3Rに関する消費者意識調査 調査レポート

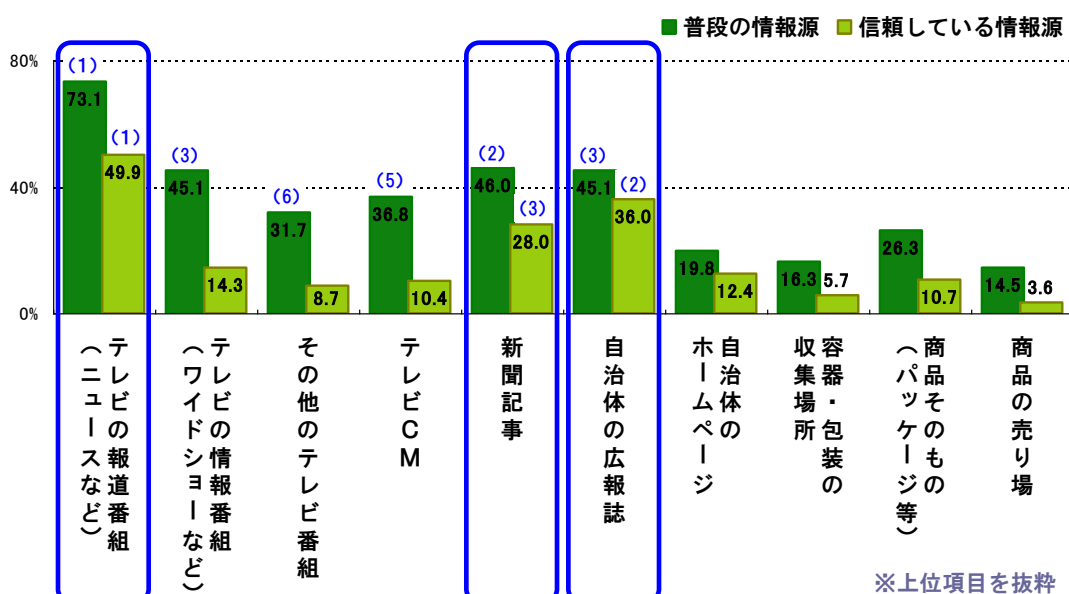
普段の情報源はテレビメディアをはじめ、多岐にわたる 信頼しているものは「テレビの報道番組」「自治体の広報誌」「新聞記事」の3つに集中

容器包装3Rについて、普段の情報源と信頼している情報源を訊ねた。

普段の情報源では、「テレビの報道番組(ニュースなど)」を筆頭に、「新聞記事」、「自治体の広報誌」、「テレビの情報番組(ワイドショーなど)」、「テレビCM」、「その他のテレビ番組」の上位6位までが3割を超え、さまざまな情報源に接触していることがわかる。

信頼している情報源では、「テレビの報道番組(ニュースなど)」、「自治体の広報誌」、「新聞記事」の3つにスコアが集中している。この上位3つの情報源は、「普段の情報源」からの数字の低下が小さく、容器包装3Rの情報源としての信頼性が高いことがわかる。(図12)。

【図12: 普段の情報源と信頼している情報源】



本件のお問い合わせは・・・